

冬の公開研修会



1月6日（金）、鎌倉女子大学児童学部教授の小林保子先生をお迎えし、「ムーブメント教育・療法とは～発達における身体運動を用いた支援の重要性～」というテーマで冬の公開研修会を開催しました。

小・中・特別支援学校の教員、教育委員会・就学前施設・放課後等デイサービスなどの職員、本校保護者など多くの方が研修会に参加されました。

前半は理論を中心とした講義、後半は理論をもとにロープやユランコ、パラシュートなど様々なムーブメント教具を用いた実技を行って学びました。

子どもの心を動かし、行動に繋がる要素のある環境が大切であり、一人ひとりの発達や特性を踏まえて積極的に楽しくムーブメント活動をしていけるとよいというお話に、参加された皆様も熱心に聞き入っておられました。実技は、見たり動いたりする中で一層理解を深め、楽しく学び合うことができました。

回答いただいたアンケートには、「講義、実技があり、分かりやすく楽しく受けることができました」、「一つ一つの動きについて、それを促す環境やヒントがあり、それを工夫していけたらと思いました」、「道具を使って身体を動かすことで、いろいろな感覚に働きかけていくことが勉強になりました」等のご感想をいただきました。

今年度の研修会で気づいたこと、いただいたアンケートの貴重なご意見をもとに、来年度もよりよい学びの場を築けたらよいと考えています。

